

# 広島県における「『親の力』をまなびあう 学習プログラム」に関する一考察

— 父親教育教材「お父さんの子育てトーク！」（教材25番）を中心に —

趙 碩  
(2015年10月5日受理)

A Study on Learning Programs regarding Parenting Skills in Hiroshima:  
Focus on Teaching Materials for the Education of Fathers  
<Fathers' Talk of Child-rearing> (Teaching Material No.25)

Zhao Shuo

Abstract: The aim of this paper is to discuss learning programs regarding parenting skills in Hiroshima. In this paper, the author focused on a teaching material (No.25) for the education of fathers and revealed its features from the perspective of a father's learning as a parent. Therefore, the background and the contents of the teaching materials were clarified. In addition, the author classified the impressions of participants which were written on the homepage of the Hiroshima Prefectural Board of Education. As a result, the following things were suggested. First, while participating in a father lecture, participants deepen their understanding of their child and it has become an opportunity for them to discover new merits on their own child-rearing. Second, it is possible for participants to exchange views with other participants through a father lecture. The father lecture becomes a forum for exchange among participants and it can be said that it has provided the opportunity for mutual learning between the fathers. Third, it can be said that learning as a parent also concerns the anxieties about participating in a father lecture and the questions on how to connect with children.

Key words: teaching materials for the education of fathers, learning as a parent  
キーワード：父親教育教材、親としての学び

## 1. 問題の所在

近年、日本では、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性として「イクメン」が注目されている。厚生労働省による男性の子育て参加や育児休業取得の促進等を目的とした「イクメンプロジェクト」が、2010（平成22）年6月17日より開始されるなど、社会全体で父親の子育てを支援する環境整備が整いつつある。しかしながら、都市化や核家族化、少子化などによる、親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、地縁的なつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が大き

く変化する中、子育てで家庭の社会的孤立が指摘されている<sup>1</sup>。2009（平成21）年にベネッセ次世代育成研究所が行った「第2回乳幼児の父親についての調査」によれば、8割以上の父親が子育ての楽しさや子育てによる成長を感じているが、一方で約4割の父親が地域での居場所や相談先がないと感じており、乳幼児を持つ父親の地域の中での孤独な子育ての様子がうかがえる<sup>2</sup>。

光田・村上（2002）の研究では、父親は子どもの出生とともに、「育児参加しなければならない」と義務を認識するようになり、一方でどのように育児参加し

たらよいか具体的な方略が分からず悩んでいたことを示している<sup>3</sup>。冬木（2008）は、父親の育児ストレスの問題を取り上げ、父親の育児への社会的支援の重要性を指摘している<sup>4</sup>。このように、父親にとって子育て意識があるものの、子どもにどう接してよいのか分からないということは、父親への支援において重要なポイントになると考えられる。

一方で、父親に対する子育て支援のプログラムは、「作る・遊ぶ・食べる」といったイベント的な参加プログラムが多いと小崎（2009）は指摘している<sup>5</sup>。さらに、田中・橋本（2007）は、自治体における父親の育児支援について考察し、父親同士の「つどいの広場」が重要な役割を持つという結果を示している<sup>6</sup>。また、「自治体が行う育児支援には、育児の相談だけではなく、心の支えとなる友人との出会いの場を提供すること、そして、身近な親族に代わるような、実質的できめ細かい支援を行うことの必要性が示唆された。」<sup>7</sup>とも指摘している。つまり、父親の親としての学びに着目する学習プログラムの実施や父親を対象とした講座の開催などが必要であると言えよう。

このような意味から、本稿では、広島県「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を取り上げる。松田（2013）は、「参加者同士が『寄って』『話して』を振り返り学びあい共感を深める中で、親が『自ら気づき』『自ら学べる』力を生み出すこと、そして、出会いをきっかけに親同士のネットワークをつなげていくことを“ねらい”としていること」<sup>8</sup>とプログラムの特徴を指摘している。また、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」の教材においては、2011（平成23）年に、「お父さんの子育てトーク！～『父親』の楽しみ持ち寄ろう～」をテーマとした父親教育教材（教材25番）が開発された。これは、父親の親としての学びを支援するものである。本稿では、広島県「『親の力』をまなびあう学習プログラム」における父親教育教材に焦点を当て、父親の親としての学びという視点からその特徴を明らかにする。

## 2. 家庭教育支援と広島県「『親の力』をまなびあう学習プログラム」

「教育の原点は家庭にある」と言われる一方で、昨今、親の教育力の低下やモラルの低下など、家庭の教育力の低下が指摘されている<sup>9</sup>。親の現状をみても、2008（平成20）年度に文部科学省が行った「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究」においても、約8割の親が家庭の教育力が低下していると実感するなどの結果が出ている。同調査研究において、世

の中全般の家庭の教育力が低下している主な理由として、「親の道徳観の低下」（56.5%）と「過保護や過干渉な親の増加」（55.6%）が最も多くあげられ、次いで、「しつけや教育に無関心な親の増加」（44.8%）、「しつけや教育の仕方がわからない親の増加」（31.7%）、「テレビ・ゲームなどによる悪い影響」（25.1%）の順になっている<sup>10</sup>。このような結果から、家庭の教育力が低下した要因には親自身の問題もあることを示唆しているとも言えよう。

家庭の教育力の低下に対し、文部科学省は、家庭教育支援事業を行った。それぞれの家庭がおかれている状況を踏まえ、文部科学省がねらっているのはすべての親を対象とした家庭教育支援である。2005（平成17）年度の『文部科学白書』において、「家庭の教育力を向上させるためには、親自身の子育てへの理解を促進したり、自分の子育てを振り返るきっかけをつくるなど、親としての学びや経験の場が必要である」<sup>11</sup>とされている。2012（平成24）年3月の文部科学省「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」報告書では、親の親としての学びや育ちを応援することが、家庭教育支援の基本であることがあげられている<sup>12</sup>。このように、親の親としての学びを支援していく必要性が指摘されている。

日本では、1964（昭和39）年から各自治体における教育委員会が実施主体となり、親たちの子育て力を高めることなどを主眼に全国で家庭教育支援が実施されている<sup>13</sup>。とりわけ、成瀬（2010）が指摘しているように、「親の育児ストレスや育児不安の増加、育児放棄や子どもへの虐待などが社会問題化しはじめた1990年代以降、国や県などの行政機関は、親として自信をもって子育てすることの大切さを学び、親自身の人間的成長を促すためのさまざまな施策を展開してきた」<sup>14</sup>。さらに、文部科学省では、2004（平成16）年度から始まった「家庭教育支援総合推進事業」において、行政と子育て支援団体などの様々な構成員からなる「地域家庭教育推進協議会」に委託し、親に対する情報や学習機会の提供、相談体制の充実等きめ細かな家庭教育支援の取組を行ってきた。

こうした中、2006（平成18）年に改正された教育基本法において、新たに家庭教育に関する規定（第10条）が設けられ、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」<sup>2</sup> 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施

広島県における「『親の力』をまなびあう学習プログラム」に関する一考察  
— 父親教育教材「お父さんの子育てトーク！」(教材25番)を中心に —

策を講ずるよう努めなければならない。」と規定されている。また、家庭教育支援の推進に関する検討委員会による「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」において、「家庭教育は親子という私的な関係を通じて行われるとみられがちですが、同時に社会の形成者としての子どもを教育するという社会的な側面もあります。このため、家庭教育を個々の家庭の努力のみに委ねることなく、担い手である親が学んでいくことを社会として支えていくことが必要です。」<sup>15</sup>と述べられており、地域や社会全体で親の親としての学びを支えていくための環境を作っていく必要があることが指摘されている。

これを受け、近年、各自治体においては、親の親としての学びを支援することを目的とする親学習プログラムが盛んに行われるようになってきている<sup>16</sup>。広島県教育委員会においても、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を開発・普及することにより、県内各市町において学びの輪を広げ、家庭教育支援の取組を進めている<sup>17</sup>。

広島県における家庭教育への総合的な支援に関しては、2002(平成14)年11月の広島県生涯学習審議会答申「広島県における家庭の教育力を充実するための方策について」では、家庭教育の現状として、①環境による教育力の低下、②家庭教育の偏り、③父親不在の家庭教育、④情報化社会の中の家庭教育という観点から家庭教育や子育てをめぐる問題点があげられており、家庭の教育力を充実するための家庭・地域・行政の役割等が示されている<sup>18</sup>。

2005(平成17)年7月に広島県が行った第1回教育モニターアンケートによれば、家庭や地域の教育力を充実させるため教育委員会が支援すべきことについては、「保護者同士や地域の人々が気軽に集える交流の場を設ける」(35.1%)、「家庭教育に関わる講座を開講するなど、学習機会を提供する」(33.0%)、「保護者同士が情報交換しやすくするための支援ネットワークを整備する」(31.8%)などに、3割以上の回答があった。2005(平成17)年10月に、「家庭の教育力を充実させるための施策について」をテーマに第2回教育モニターアンケート調査が行われた。その結果、多くの人が家庭教育支援に関する施策に参加している実態が明らかにされた。一方、参加しない理由についてみると、「必要性を感じない・興味が無い」、「時間がない・忙しい」、「時間が合わない」、「内容が不十分」などの理由があげられている<sup>19</sup>。これを踏まえ、2005(平成17)年11月に開催された広島県「第3回教育改革推進懇談会」では、親自身の問題が、家庭の教育力の低下につながったことが指摘され、また、家庭教育支援の

ための学習の場の提供、学習の場などへの参加を促す環境づくりの必要性なども指摘されている<sup>20</sup>。

このような状況を踏まえ、広島県は、2006(平成18)年度に、文部科学省委託事業「家庭教育支援総合推進事業」を活用し、親の教育力を高めるプログラム開発事業を行った。本事業においては、「親の教育力を高めるプログラム開発検討委員会」を設置し、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」開発を行った。「親の教育力を高めるプログラム開発検討委員会」は、プログラムを開発するにあたって、広島県教育モニターアンケートをもとに、子育てに真摯な態度で向き合っている人が多く存在していることに注目した。また、学びたい・支えたいと思う人に語り合う場を提供することで、親の教育力向上が図られるのではないかと考えたことによって、教授型学習プログラムではなく参加型学習プログラムの開発を目指した。それにより、指導・伝授者タイプのインストラクターや専門家ではなく、促進・媒介者タイプのファシリテーターが進行役を務める実施方法を選択することになった<sup>21</sup>。

「『親の力』をまなびあう学習プログラム」の名称における「親の力」とは、「子どもに対して第一義的責任を果たす力と社会の一員として子どもを育成する力とが一体となった“子育て力”=人を育てようとする人なら誰もが持っているであろう“親心”から発せられる力」<sup>22</sup>のことである。子育てに必要な知識や技術の習得ではなく、自他の子育てを振り返り学びあうことを通じて、自分に必要な知識や技術について、親が「自ら気づき、学ぶことができる力」を高めていくことを目的としている。また、子育て中の親だけでなく、中学生・高校生等のこれから「親」になる世代や妊娠期の親、子育てを終了した中高年世代まで、幅広い対象が学習することができるのも大きな特色である<sup>23</sup>。

広島県「『親の力』をまなびあう学習プログラム」は、「参加者同士が話し合い、知恵を出し合い、お互いに学びあう、参加者が『学びの主体』となる『参加型の学習プログラム』」<sup>24</sup>である。この目的が果たされるためには、進行役であるファシリテーターの進め方が重要である。そのため、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」進行の手引書である「学習のすすめ方」には、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーターの役割として、「①学習者の『自ら気づきまなぶ力』を引き出し、②語り上手ではなく、聞き上手になりましょう、③力の均衡(パワーバランス)を大切にしましょう、④コーディネーターでもあります、⑤深刻な問題は関係機関を紹介しましょう、⑥いろいろな人の存在を意識しましょう」<sup>25</sup>の6つの視点があげられている。2008～2014(平成20～

26) 年度の7年間で、724人が県や市町で開催された養成講座を修了し、ファシリテーターとして県内各市町で活躍している。

『親の力』をまなびあう学習プログラム』の展開に関しては、2008～2010(平成20～22)年度に単県事業「家庭教育応援プロジェクト事業」として県が主体となって取り組んだ。具体的には、県教育委員会では、『親の力』をまなびあう学習プログラム』を活用した学習機会の充実に取り組み、「(出前)講座の実施」、「ファシリテーター養成講座の開催」、「市町単位のファシリテーター交流会の開催」などを行った。2011(平成23)年度からは、単県事業「家庭教育支援事業」として、市町における取組への支援にシフトしている。具体的には、市町における講座実施への支援、新しい講座実施の場の開拓や教材の改善・開発、ファシリテーターの資質向上と情報交流のためのステップアップ研修の実施、市町が実施するファシリテーター養成講座への支援などを中心に、事業が行われた<sup>26)</sup>。

以上のように、『親の力』をまなびあう学習プログラム』は、2006・2007(平成18・19)年度文部科学省委託事業「家庭教育支援総合推進事業」として開発され、2008(平成20)年度からは「家庭教育応援プロジェクト事業」、「家庭教育支援事業」として本格実施に入ることがうかがえる。こうした事業を通して、2015(平成27)年度までに県内全市町において1200件以上の『親の力』をまなびあう学習プログラム』講座が実施され、参加者は全体で29000人以上にのぼっている。公民館等での家庭教育講座、幼稚園・保育所・学校等での保護者懇談会、PTA 研修会、子育てサークル、乳幼児健診等、子育てに関わる様々な場面で『親の力』をまなびあう学習プログラム』が活用されている<sup>27)</sup>。

### 3. 父親教育教材「お父さんの子育てトーク！」(教材25番)

『親の力』をまなびあう学習プログラム』は、子育て準備期(中学・高校生などの青少年からまもなく親になる人)、子育て前期(乳幼児から児童期初期の親)、子育て後期(児童期中期から中学生・高校生の親)、子育て支援期(中高年などの子育て支援者)の子育て段階に応じた教材で構成されている。さらに、多様化する現代的課題に対応するために、2011(平成23)年度は「父親の子育て」と「携帯電話」、2012(平成24)年度は「仕事と子育ての調和のために」、2013(平成25)年度は「乳幼児に対する読み聞かせ」をテーマとした新しい教材が開発された。プログラムの構成としては表Iのようになっている。ここで注目されるの

が、父親を対象とした父親教育教材「お父さんの子育てトーク！」(教材25番)である。

『親の力』をまなびあう学習プログラム』は、2006・2007(平成18・19)年度の2年間かけて、教材1番から24番のプログラムを開発したが、開発に着手してから5年を経過し、その間の社会情勢の変化等により、親や子どもに関わって、「イクメン」、「父親の子育て参加」等の気運も高まってきた。そのため、広島県としては、受講者にとってより身近で、関心の高いテーマのプログラムを新たに開発すれば、学習の成果・効果は大きいと判断し、有識者等の意見も踏まえ、2011(平成23)年度に父親教育教材「お父さんの子育てトーク！」(教材25番)を開発した。

開発された教材25番に関するワークシートによれば、『父親であること』を楽しむコツをみんなで持ち寄って、楽しく、気軽に、時にはあつく!!子育てトークを交わしましょう!』と指摘されており、教材25番は、「父親として子育てにかかわることの楽しさを語り合い、自分なりにできることを考える」ことをねらいとしている。教材25番を活用した父親講座では、「①うちとける(簡単なゲームを通じてリラックスした雰囲気)」、「②話し合う(教材に自分の思いを記入し、グループで意見交流)」、「③気づく(話し合いの内容を振り返り、学びを深めます)」といった進め方を通じ、父親の親としての学びを応援する。こうした講座の現場では、3つの段取りが示されている。

第1は、「考えましょう、出し合ひましょう」である。それぞれの設問に対し、参加者は自分なりの考えや答えを記入し、話し合ひで意見を出し合う。その際、参加型学習の前提として、「①発言の平等、②人の発言の肯定、③秘密の保守」の「三つの約束」について、参加者が共有することが重要である。設問1は「初めて『親』になった頃のことを思い出してみましょう。」である。具体的には、『父親』であることを最初に実感したのはどんなときですか?、「そのとき、どんな気持ちになりましたか?」である。子どもが生まれた頃のことを話題にして話すことで、話し合える雰囲気作りを行う。設問2は「最近のお子さんとの関わりについて振り返ってみましょう。」である。具体的には、「①『楽しかったこと』や『うれしかったこと』はどんなことですか?日常生活の中で、休日の外出でなど、何でも結構です。具体的になるべくたくさん思い出してみましょう。」「②『困っていること(悩み)』や『分からないこと(疑問)』はありませんか?」「③『悩み』や『疑問』を解決するためのアイデアを出し合ひましょう。」である。参加した父親は、子どもとの関わりについて話し合ったことをもとに、子育てに関する

広島県における「親の力」をまなびあう学習プログラム」に関する一考察  
 — 父親教育教材「お父さんの子育てトーク！」(教材25番)を中心に —

表1 プログラム一覧表

「親の力」をまなびあう学習プログラム～寄って、話して、自ら気づく～			
段階	対象	教材番号	教材のタイトル
子育て準備期	中学・高校生などの青少年対象	1	おぎゃーってスゴイ！～生まれてきた自分、やがて生まれてくる命～
		2	親しらず 子しらず～親子関係を振り返る～
		3	おや！ おや？～自分のあゆみと親のかかわり～
	まもなく親になる人対象	4	親になるって！？～命を授かる責任と喜び～
		5	妊娠期のカラダとココロ～パートナーの理解と協力～
		6	出産は初めの一步！～思い描こう、赤ちゃんのいる生活～
子育て前期	0～2歳児の親対象	7	私の時間、子どもの時間～つくってますか？心のゆとり～
		8	お付き合っていて難しい？！～「私と周り」の人間関係を考える～
		9	ワイワイ、キャーキャー！！～「子どもと遊び」について考える～
	3～6歳児の親対象	10	買って買って！！～さあ困った！あなたなら～
		11	〇〇ちゃんがするっ！！～自我の芽生えと親の思い～
		12	もうすぐ小学生！～これまでの子育てを振り返る～
小学1～3年生の親対象	13	親子でやってみよう！～楽しい小学校生活を過ごすために～	
	14	くらべないで！～同じ子どもなんて一人もない～	
	15	みなおして！～多様な視点から子どもを見る～	
子育て後期	小学4～6年生の親対象	16	体と心の変化～子どもの思い、親の戸惑い～
		17	どうする？ どういう？～子どもの人間関係へかかわり～
		18	さあ、どっち！？～信じる、見守る、待つ、聞く～
	中学生・高校生の親対象	19	思い出してみても…～私にもあった青春時代～
		20	キャッチボールは得意ですか？～気持ちをつたえる 胸の真ん中でうけとめる～
		21	ほどよい距離感って？～子どもの自立と親の自立～
子育て支援期	中高年などの子育て支援者対象	22	よりそってみて…～子育て環境の変化を知る～
		23	たちどまってみて…～こんな場面で、あなたなら？～
		24	かかわってみて…～地域の大人ができること～

【新規開発教材】

対象	教材番号	教材のタイトル
乳幼児～高校生の父親	25	お父さんの子育てトーク！～「父親」の楽しみを持ち寄ろう～
小学生～高校生の親	26	ケータイ！ウチではどうする？～考えてみて、わが家流のつきあい方～
子育て期の親、働く人など	27	向き合ってみて…～「仕事」と「子育て」の調和のために～
まもなく親になる人、0～3歳児の親子	28	おひぎにだっこでおはなししましょう～絵本をひらいてみませんか？～
まもなく親になる人、0～3歳児の親	29	おひぎにだっこでおはなししましょう～読み聞かせ、どうしてる？～

【アレンジ版教材】

対象	教材番号	教材のタイトル
中学・高校生などの青少年対象	2-2アレンジ版	親しらず 子しらず～親子関係を振り返る～
まもなく親になる人対象	6-2アレンジ版	出産は初めの一步！～思い描こう、赤ちゃんのいる生活～
0～6歳児の親対象	10-2アレンジ版	こんな時、どうする？～子どもの気持ちを受け止める～
	12-2アレンジ版	もうすぐ小学生！～期待と不安の中味とは？～

(広島県教育委員会「親の力」をまなびあう学習プログラム学習のすすめ方<平成26年4月改訂>、2014年、5-6頁を参考にしながら筆者が作成した。)

情報交換を行う。

第2は、「さらに考えましょう」である。具体的には、「父親として、子育てをより楽しむためにどんなことを大切にするといいでしょう? 『父親を楽しむための か条』を作ってみましょう!」である。これにより、話し合ったことをもう一度考え、学習を深めていく。

第3は、「学習を振り返りましょう」である。具体的には、「自分の中で、分かったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。」である。参考資料や「県民の皆さんの声」を読みながら、今回の学習を振り返り、学習成果を記入する<sup>28</sup>。

教材25番を活用した父親講座の成果について、参加者の感想を通して考察していく。本稿では、広島県教育委員会ホームページに掲載されている教材25番を活用した父親講座の様子についての記述を取り上げる。

2012(平成24)年7月14日(土)に、広島市の永照幼稚園の父親の会により父親講座が実施され、参加者数は41人であった。2012(平成24)年11月9日(金)に、福山市立緑丘幼稚園により父親講座が実施され、参加者数は8人であった。2013(平成25)年1月26日(土)に、広島県子育てサポートステーション「いくたす福山」により父親講座が実施され、参加者数は8人であった。2014(平成26)年2月22日(土)に、広島県子育てサポートステーション「いくたす福山」により父親講座が実施され、参加者数は2人であった<sup>29</sup>。

参加者の感想をKJ法により分類した。まず、広島県教育委員会ホームページに示された受講者の感想を研究者と筆者とで相談し、文脈で切って19個に分けた<sup>30</sup>。それを大学院学生2名が独立して意味のまとまりで分類し、相談して一致させた。ここでは、一致したもののみを採用した。意味のまとまりは、「その他」を含め、以下の8つであった。個数が多い順に示す。

- ① 次の父親講座への期待(5個)
  - ・もう少し時間をかけて受けてみたい
  - ・参観日等の別カリキュラムでじっくりと時間をとれば、さらに有意義な学習プログラムとなるだろう
  - ・また研修に参加したい
  - ・もう少し父親だけで話してみたい
  - ・子どもの遊びについて話をしてみたい
- ② 父親との交流での気づき(4個)
  - ・同じくらいの年齢の子どもを持つ親の方と色々な意見交換ができたことは大変参考になった
  - ・ふりかえりや他のグループからの反省、意見

聞くことができた

- ・他の父親の思いを聞く機会は大切だと思う
- ・他のグループの話しも聞けて良かった

- ③ 今回の父親講座の全体の感想(3個)
  - ・良い講座であった
  - ・学ぶことが多かった
  - ・子どものことを考えるいい機会だった
- ④ 父親講座に参加することへの不安(2個)
  - ・大丈夫なのだろうかと最初は不安だった
  - ・参加は緊張した
- ⑤ 子どもへの接し方の疑問(2個)
  - ・まだ子どもが小さいので何をして遊んでいいのか分からない
  - ・小さいけれど悪いことをした時に叱った方がいいのか
- ⑥ ファシリテーターからの学び(1個)
  - ・ファシリテーターの方と意見交流する中でも参考になることが多かった
- ⑦ 父親とファシリテーターからの学び(1個)
  - ・父親やファシリテーターの方など、他の方の意見をざっくばらんに聞くことができる機会は少ないのでとても面白かった
- ⑧ その他(1個)
  - ・自分だけで遊びに出るのも初めてだった

上位3つについて取り上げる。「次の父親講座への期待」が多いことから、教材25番を活用した講座が参加した父親にとって有意義であったことがうかがえる。また、「父親との交流での気づき」に示されている内容は教材25番のねらいであり、ねらいが達成されていることがうかがえる。「今回の父親講座の全体の感想」では、「学ぶことが多かった」、「子どものことを考えるいい機会だった」など、父親の親としての学びがあったことがうかがえる。

以上の分類から、教材25番を活用した父親講座における父親の親としての学びとして以下の点をあげたい。

第1に、父親講座に参加しているうちに、参加者は子ども理解がより深まり、自分の子育てを見直すきっかけになっていることである。③の意見の「学ぶことが多かった」、「子どものことを考えるいい機会だった」

た)、⑥の意見の「ファシリテーターの方と意見交流する中でとても参考になることが多かった」に示されている。

第2に、参加者は、父親講座を通じて他の参加者との意見交流ができたことである。父親講座は、参加者同士の交流の場となり、父親同士の学びあいの機会を提供していると言える。②の意見の「同じくらいの年齢の子どもを持つ親の方と色々な意見交換ができたことは大変参考になった」、「ふりかえりや他のグループからの反省、意見聞くことができた」、「他の父親の思いを聞く機会は大切だと思う」、「他のグループの話も聞けて良かった」に示されている。

第3に、少数ではあるが、④父親講座に参加することへの不安、⑤子どもへの接し方の疑問が示されていることがあげられる。不安や疑問があることがわかったことも親としての学びであったと言える。

#### 4. 考察

本稿では、広島県「『親の力』をまなびあう学習プログラム」における父親教育教材(教材25番)に焦点を当て、父親の親としての学びという視点からその特徴を明らかにした。父親の親としての学びとして、3つのことがあることが示唆された。

「『親の力』をまなびあう学習プログラム」における父親教育教材は、社会の変化に対応した社会的な要請の中において開発されたと言える。父親教育教材の開発を行うことにより、父親の親としての学びについて関心が高まり、父親自身の意識改革を促すだけでなく、学びあう父親のつながりを創ることに効果を発揮すると思われる。さらに、普段子育てについての悩みや不安を相談する相手がいない父親に対し、父親教育教材を活用した父親講座に参加することで父親の親としての学びの機会を創出するとともに、父親同士のネットワークをつなげていく可能性がある。これは、父親に地域における居場所や相談場の提供につながるとも言える。

一方、「『親の力』をまなびあう学習プログラム」には課題も残されていると考えられる。「『親の力』をまなびあう学習プログラム」の父親講座への参加者は、41人、8人、8人、2人と少ないのが現状であった。父親の参加を促す取り組みが必要であろう。

本稿は、教材25番を活用した父親講座の成果について、広島県教育委員会のホームページに掲載された参加者の感想を通して考察した。今後の課題として、父親講座の成果をさらに検討し、父親の親としての学びを促進するために何が必要か考察を深めていきたい。

#### 【注及び参考文献】

- 1 文部科学省編『平成23年度文部科学白書』佐伯印刷、2012年、75頁。家庭教育支援の推進に関する検討委員会「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」、2012年、3-6頁、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/katei/1306958.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/1306958.htm) (2015年5月20日取得)。
- 2 ベネッセ次世代育成研究所「第2回乳幼児の父親についての調査報告書」『ベネッセ次世代育成研究所報7』、2011年、24-41頁。
- 3 光田咲子・村上明美「初めて子どもを持つ父親の育児観」『母性衛生』43(1)、2002年、67-72頁。
- 4 冬木春子「父親の育児ストレス」大和礼子・斧出節子・木脇奈智子編『男の育児・女の育児-家族社会学からのアプローチ-』昭和堂、2008年、137-159頁。
- 5 小崎恭弘「次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画における市町村自治体の父親支援-A県におけるアンケート調査の結果より-」『神戸常盤大学紀要』1、2009年、49-59頁。
- 6 田中和江・橋本紀子「父親の育児とそれに対する支援の現状と課題-父親の労働状況と育児参加の実態からみる一考察-」『女子栄養大学紀要』38、2007年、53-74頁。
- 7 同上、61頁。
- 8 松田愛子「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を持続可能な取組としていくために～ファシリテーターの果たす役割を中心に～」広島県立生涯学習センター『平成24年度研究成果報告書』、2013年、39頁。
- 9 文部科学省編『平成22年度文部科学白書』佐伯印刷、2011年、123頁。工藤真由美「家庭教育の現状と課題」『四條畷学園短期大学紀要』43、2010年、9-12頁。文部科学省委託調査「家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究」(平成20年度)調査対象：0歳～18歳の子どもを持つ20歳～54歳の父母3000人。
- 10 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課家庭教育支援室「家庭教育支援の取組と『早寝早起き朝ごはん』国民運動の推進(特集 家庭教育支援の充実について)」『教育委員会月報』62(3)、第一法規、2010年、10-21頁。
- 11 文部科学省編『平成17年度文部科学白書』国立印刷局、2006年、57頁。
- 12 家庭教育支援の推進に関する検討委員会、前掲資料、13頁。
- 13 斎藤嘉孝『親になれない親たち-子ども時代の原体験と、親達達の準備教育』新曜社、2009年、138頁。
- 14 成瀬千枝子「親学び広場施策のあり方研究調査報告

- 書』『(財) ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部 共生社会づくり政策研究群』, 2010年, 2頁。
- <sup>15</sup> 家庭教育支援の推進に関する検討委員会, 前掲資料, 13頁。
- <sup>16</sup> 各自治体による親学習プログラムについては, 栃木県「親学習プログラム」, 埼玉県「親学習プログラム集」富山県「親を学び伝える学習プログラム」, 山梨県「やまなし『親』学習プログラム」, 愛知県「あいちっこ『親の学び』学習プログラム」, 大阪府「『親』をまなぶ, 『親』をつたえる」, 広島県「『親の力』をまなびあう学習プログラム」, 熊本県「『親の学び』プログラム」などがあげられている。
- <sup>17</sup> 松田愛子, 前掲資料, 35頁。
- <sup>18</sup> 広島県教育委員会ホームページ「広島県における家庭の教育力を充実するための方策について」  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/08lifelong-kateikyoubu-tousinzentai.html> (2015年5月31日取得)。
- <sup>19</sup> 広島県教育委員会ホームページ「統計・調査」  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/toukei.html> (2015年5月31日取得)。
- <sup>20</sup> 広島県教育委員会ホームページ「平成17年度第3回教育改革推進懇談会の概要について」  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/03organization-h17-3-kyo-gaiyou-index.html> (2015年5月31日取得)。
- <sup>21</sup> 以上, 橋本信子「巻頭言～『親の力』をまなびあう学習プログラムについて～」広島県教育委員会「『親の力』をまなびあう学習プログラム学習のすすめ方」<平成21年4月改訂版>, 2009年, 1頁参照。
- <sup>22</sup> 広島県教育委員会「『親の力』をまなびあう学習プログラム学習のすすめ方」<平成26年4月改訂>, 2014年, 3頁。
- <sup>23</sup> 同上, 3-4頁。
- <sup>24</sup> 同上, 4頁。
- <sup>25</sup> 同上, 9-10頁。
- <sup>26</sup> 以上の「『親の力』をまなびあう学習プログラム」の展開については, 松田愛子, 前掲資料, 39-42頁参照。
- <sup>27</sup> 広島県教育委員会ホームページ「『親の力』をまなびあう学習プログラム」講座の様子  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyoubu-kouza.html> (2015年6月3日取得)。
- <sup>28</sup> 以上のワークシートの具体的な内容については, 広島県教育委員会ホームページ「『親の力』をまなびあう学習プログラム」  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyoubu-oyapuro.html> (2015年6月3日取得) 参照。
- <sup>29</sup> 以上の教材25番を活用した父親講座の様子については, 広島県教育委員会ホームページ「『親の力』をまなびあう学習プログラム」講座の様子  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyoubu-kouza.html> (2015年6月3日取得) 参照。
- <sup>30</sup> 教材25番を活用した父親講座に参加した参加者の感想については, 広島県教育委員会ホームページ「『親の力』をまなびあう学習プログラム」講座の様子  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/kateikyoubu-kouza.html> (2015年6月3日取得) 参照。  
(主任指導教員 鈴木由美子)